

# 高活協通信(2024年4月号)

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会

<http://www.agenomics.org>

## ◆◆◆高活協ニュース◆◆◆

### ■お知らせ

- 今月の“「定年後の仕事」情報欄”は、内閣府「生活設計と年金に関する世論調査」から就労に関する部分をピックアップして掲載しました。
- 高活協ホームページを更新しました。
  - ・「高活協ホームページ」の URL は以下の通りです。  
<http://www.agenomics.org>

高活協は会員の皆様に毎月 1 回「高活協通信」を配信させていただいております。この通信活動を会員の皆様と高活協とのコミュニケーションの機会とさせていただきたく考えております。つきましては、皆様のご意見や提供したい話題などがございましたら、本配信メールへの返信にてお寄せいただければ幸いです。

### ■2024年3月の主な活動

- 高活協は現在、比較的少人数の会議・イベント等、あるいは ZOOM 等を利用したオンラインの会議・イベント等を適宜実施しております。
- 2024年3月12日、高活協が参加している高齢社会 NGO 連携協議会(高連協)の役員会に理事として出席しました。議題は2024年度の事業計画などです。
- 2024年3月18日、高連協の総会に役員として出席しました。2024年度の事業計画など議題はすべて可決されました。また日本老年医学会との連携についても話し合われました。
- 2024年3月28日、高活協が連携している未来社会共創センターの理事会に理事として出席しました。議題は2024年度の事業計画などです。長生きを喜べる長寿社会をどう実現するかが課題でした。
- 今月の“「定年後の仕事」情報欄”では、内閣府「生活設計と年金に関する世論調査」から就労に関する部分をピックアップして掲載させていただきました。
- 高活協ホームページの「お知らせ」ページに、最近の高齢者就労についてデータを中心に整理したメモ「高齢者就労の状況と課題」を掲載しました。
- 高活協ホームページの「アーカイブ」ページに、「高活協通信(2024年3月号)」を掲載しました。
- 2024年3月、生涯現役社会の実現に向けた行政や企業などの動向に関する情報収集を行いました。なお、「◆◆◆生涯現役社会の実現に向けてー トピックス ◆◆◆」のコーナーでは、“「定年後の仕事」関連情報”を適宜掲載していきます。

## ◆◆◆高活協主催/共催イベントの紹介◆◆◆

---

### ■これまで高活協が主催した(共催含む)イベントの報告書/記録集

過去に高活協が主催・共催したイベント(シンポジウム、セミナー/フォーラム)の報告書や記録集は、高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ボタンをクリックしてご覧になれます。(ホームページは下記 URL)

<http://www.genomics.org/>

## ◆◆◆高活協会員関連イベント等のご紹介◆◆◆

---

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

## ◆◆◆生涯現役社会の実現に向けて — トピックス◆◆◆

---

生涯現役社会は、「職業寿命」「社会活動寿命」「健康寿命」「資産寿命」という 4 つの寿命の延伸が相乗効果をもたらす社会、すなわち「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

### ■ちょっとした話 — 「70 歳以降働く」最多 39% (日経記事)

日本経済新聞社は 2018 年から年に 1 度、働き方などに関する郵送世論調査を行っています。2023 年 10 月～11 月に行ったのが最新の調査で 6 回目となりますが、その結果が日本経済新聞(2024 年 2 月 19 日付朝刊 1 面トップ)に掲載されていました。調査は全国の 18 歳以上の男女を無作為に抽出して実施しており、1,607 件の回答(有効回答率 53.6%)を得ています。結果の中から 2 つの質問に対する回答は以下の通りでした。

— — — — —

質問 何歳まで働くつもりか

60～64 歳 11%

65～69 歳 27%

70～74 歳 21%

75 歳以上 18%(2018 年より 5 ポイントアップで最高)

平均値 68.4 歳(2018 年の平均値 66.6 歳から 1.8 歳アップ)

質問 将来不安に感じる事(複数回答)

生活資金など経済面が 70%でトップ(2018 年から 2022 年の調査では「健康」がトップ)

— — — — —

### ■「定年後の仕事」情報欄

○2021 年 4 月から施行された改正高年齢者雇用安定法(=70 歳就業法)では、定年後の継続雇用だけで

はなく、継続的な業務委託や社会貢献活動への支援といった措置も選択肢になっており、高齢者の多様な働き方を後押ししています。

○今後このトピックスのコーナーでは、「定年後の仕事」に関連した情報を適宜掲載していきます。高齢者の就業を考える際の参考にしていただければ幸いです。

### 内閣府「生活設計と年金に関する世論調査」から

内閣府は 2024 年 3 月に「生活設計と年金に関する世論調査」の結果を公表している。調査対象は全国 18 歳以上 5,000 人(有効回収数 2,833 人)、調査期間は 2023 年 11 月 2 日～12 月 10 日、調査方法は郵送で行っています。

この調査の結果の中から、5 つの質問に対する回答をピックアップして以下に示します。

— — — — —

#### 問 1 何歳まで仕事をしたいか、またはしたか

- ・50 歳以下 7.8%
- ・51 歳～60 歳 14.8%
- ・61 歳～65 歳 28.5%
- ・66 歳～70 歳 21.5%
- ・71 歳～75 歳 11.4%
- ・76 歳～80 歳 6.1%
- ・81 歳以上 3.6%
- ・これまで働いておらず、これから働く予定もない 2.0%

#### 問 2 (問 1 で 61 歳以上と答えた者に)その年齢で退職したい、またはした理由 — 複数回答可

- ・生活の糧を得るため 75.2%
- ・いきがい、社会参加のため 36.9%
- ・健康にいいから 28.7%
- ・時間に余裕があるから 14.6%

#### 問 3 (問 1 で 61 歳以上と答えた者に)最も希望する就労形態、または主に働いた就労形態

- ・役員を含む、正規の職員・従業員 34.9%
- ・期間従業員、契約社員、派遣社員を含む、非正規の職員・従業員 39.5%
- ・自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主・自由業 12.2%
- ・家族従業者・家族が営んでいる事業を手伝う 4.0%

#### 問 4 老後の生活設計の中での公的年金の位置づけ

- ・全面的に公的年金に頼る 26.3%
- ・公的年金を中心とし、これに個人年金や貯蓄などを組み合わせる 53.8%
- ・公的年金にはなるべく頼らず、できるだけ個人年金や貯蓄などを中心に考える 11.7%
- ・公的年金には全く頼らない 1.6%

#### 問 8 厚生年金を受け取る年齢になったときの働き方

- ・働かない 23.6%
- ・年金額が減らないように、就業時間を調整しながら会社などで働く 44.4%
- ・年金額が減るかどうかわからず、会社などで働く 14.0%

- ・会社などで働かず、自営業主・自由業などとして働く 9.1%
- ・厚生年金の加入期間・加入予定がなく、受給する見込みがない 3.7%

— — — — —

内閣府の調査では、66歳以上も仕事をしたい(仕事をした)との答えが42.6%と、前回2018年調査から5ポイント増えています。「ちょっとした話」欄で触れた日本経済新聞社の世論調査とは、質問の仕方などが異なるため直接比較はできませんが、両方とも仕事をやめる年齢が(5歳程度?)高くなっていることは、共通しているようです。

そして両調査とも、高齢者だけではなく「18歳以上を調査の対象」としている点に注目したいと思います。すなわち、若年齢層でも仕事をやめたいと考える年齢が高くなっているようです。

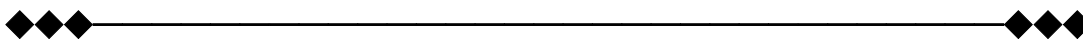
---

### ◆◆◆「高齢者就労関連サイト」紹介コーナー◆◆◆

#### ■高齢者雇用の総合誌『エルダー』のご紹介

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が発行する高齢者雇用の総合誌「エルダー」に関する情報は、下記のURLからご覧いただけます。

[啓発誌「エルダー」 | 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 \(jeed.go.jp\)](http://jeed.go.jp)



配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍支援協議会・事務局までご連絡ください。

本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。

また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。

---

一般社団法人高齢者活躍支援協議会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町17-2 兜町第6葉山ビル4階

TEL: 03-6555-3926 HP: <http://www.agenomics.org>

---